

# 新型コロナウイルス感染症は増えているのか？

川崎高津診療所 松井英男

## 1 はじめに

世界保健機関（WHO）は 2023 年 5 月 5 日、新型コロナウイルスの世界的な蔓延を受けて出していた、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」の宣言を終了する事を発表しました<sup>1)</sup>。これを受けて、日本では 5 月 8 日から、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、「新型インフルエンザ等感染症（2 類相当）」から「5 類感染症（定点観測）」に移行しました<sup>2)</sup>。これによって、発生動向を知るためには、定点観測医療機関からの一週間に一度の集計結果、種々のサーベイランス（抗体保有率調査、下水サーベイランス研究等）が必要になり、医療体制も行政が関与しない、「幅広い医療機関による自律的な通常対応」が求められています。また、基本的感染対策では、政府は一律に対応を求めることはなく、その実施は個人や事業主の判断に委ねられることになったのです。

## 2 COVID-19 の感染状況の把握

### （1）定点観測とは？

定点観測とは、あらかじめ指定された医療機関が毎週 1 回、診断した患者を報告するもので、季節性インフルエンザなどの流行の把握に用いられています。川崎市では、61 の医療機関で毎週月曜日に届け出が行われており、「川崎市感染症情報発信システム（KIDSS）」により、リアルタイムでそのデータが公開されています<sup>3)</sup>。このデータをもとに 6 月 25 日（日）までの川崎市全体の医療機関当りの報告数（6 月 26 日午前 11 時現在）を見てみると、5 月下旬にはピーク時に 10 人/週を超えるようになり、25 日現在では、13.7 人/週でした（図 1）。また、これには地域差があり、高津区の一部では 63 人/週でインフルエンザに例えると警戒レベルに達しています（図 2）。

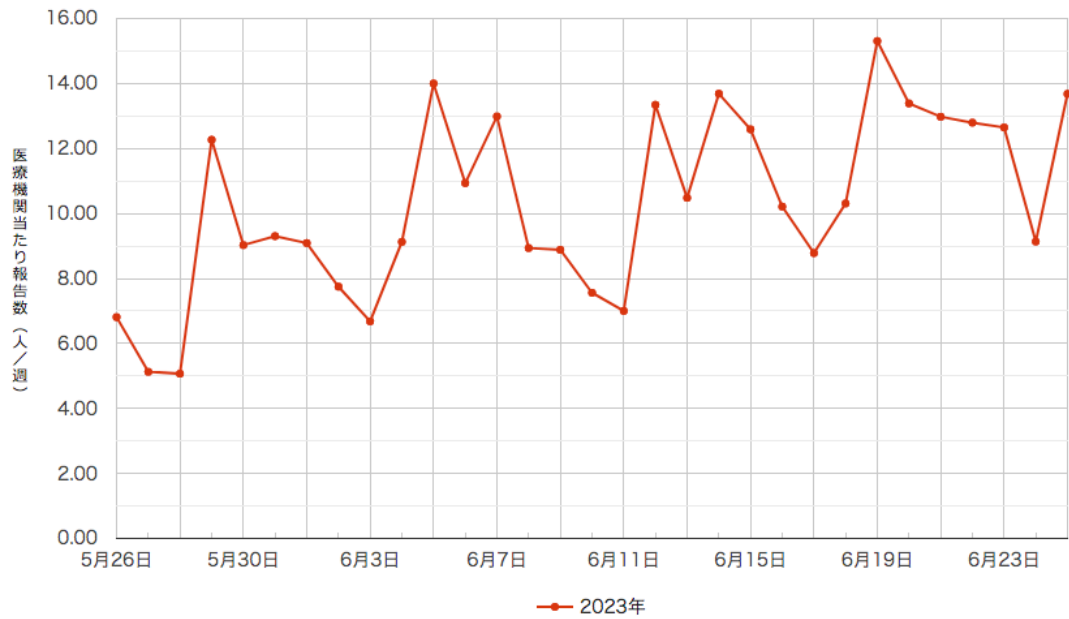


図1 COVID-19の川崎市全体の医療機関あたりの報告数（文献3より引用）

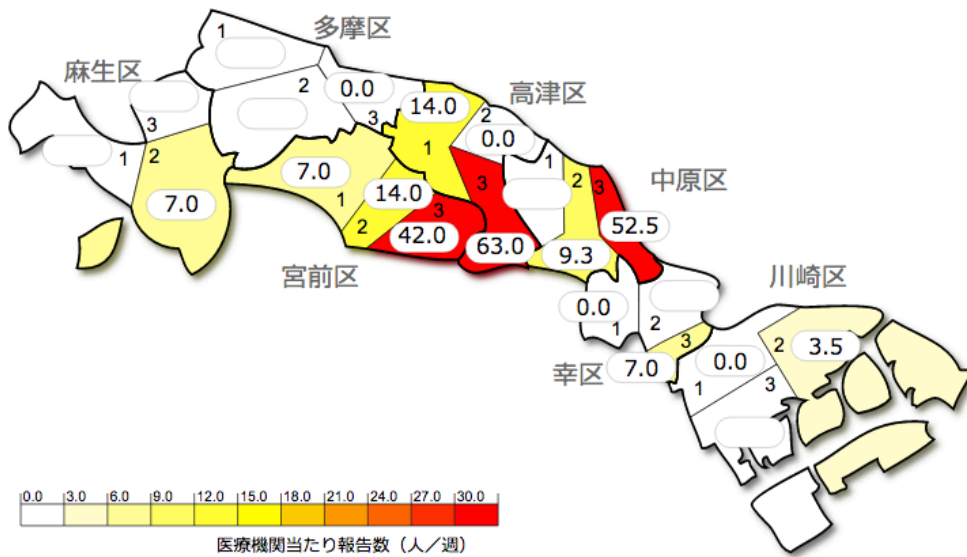


図2 COVID-19の地域別の医療機関あたりの報告数（文献3より引用）

厚生労働省は、6月23日、全国5000の定点医療機関からの直近一週間（12日から18日）のCOVID-19の患者数は、1医療機関あたり5.60人であったと発表しました<sup>4)</sup>。これは、前週（5日から11日）の5.11人より増加していることとなりますが、沖縄県

のように 28.74 と警戒レベルに近いところもあります。また、米国モデルナ社の日本人である、モデルナ・ジャパンでは、国内約 4100 の医療機関による民間診療データベース（日本臨床実態調査: JAMDAS、M3 社）を通じて陽性者数を把握しており、25 日の全国新規感染者数を 4 万 5574 人と推計しています<sup>5)</sup>。厚生労働省の定点観測の集計では、タイムラグが生じるわけですが、モデルナ社が公表している電子カルテのデータベースをもとにした推計値は、実数が公表されていた頃と同様、リアルワールドに近い値と考えられます。

## （2）新型コロナウイルスの下水疫学調査

医療機関からの報告の集計ないしは電子カルテのビッグデータだけでは、実際の感染者数を過小評価する可能性があります。そこで注目されているのが下水中のコロナウイルス mRNA の定量です。これは、コロナ禍の初期より報告されていたもので、地域の患者が感染確認する前にその動向を捉えることができます<sup>6)</sup>。

神奈川県では、神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科との共同事業であり、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、「感染者情報分析 EBPM プロジェクト」を実施しており、相模川流域の下水中の新型コロナウイルスの遺伝子検出による感染状況の把握や変異株の同定を行っています<sup>7)</sup>。これまでの第 6 波から 8 波までの検討では、流域新規感染者数との相関が示されており、患者数の増加以前から下水中の mRNA 濃度が上昇することがわかっています（図 3）<sup>8)</sup>。これまで第 8 波は収束していましたが、5 月の第 2 週に入り、相模川左岸（茅ヶ崎市、平塚市、藤沢市、海老名市、綾瀬市、座間市、相模原市、寒川町からの下水を処理する柳島水再生センター）でのウイルス量の急峻な上昇を認め、6 月に入り両岸で増加しましたが、その後収束傾向ともとれる動向を示しています（図 4）<sup>9)</sup>。

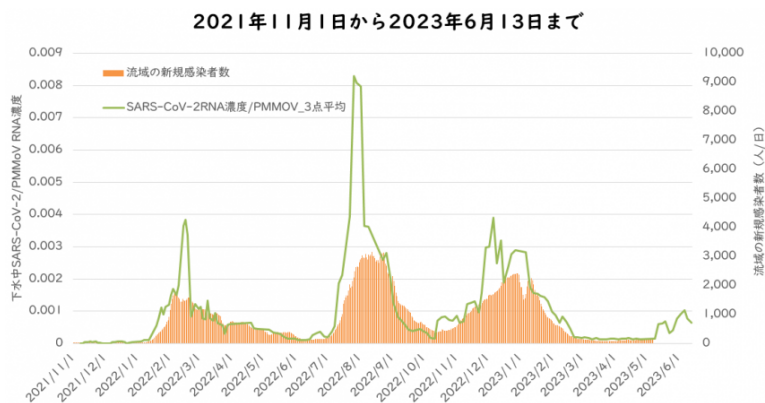


図 3 相模川流域下水中のコロナウイルス濃度と流域感染者数（文献 8 より引用）

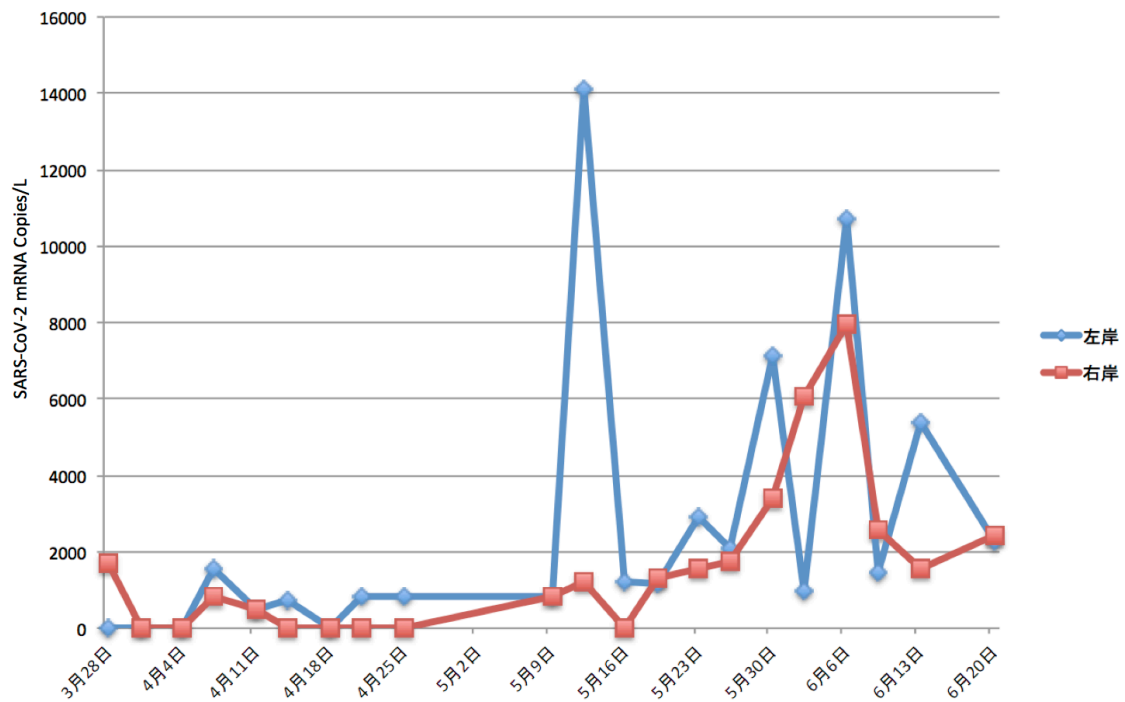


図4 相模川流域の下水におけるコロナウイルス濃度の推移 (文献9より作成)

### 3 おわりに

COVID-19が5類感染症に移行したことで、社会全体がこれまでのいろいろな制限が撤廃された風潮になっています。しかし、SARS-CoV-2ウイルスがなくなったわけではなく、感染者数が増加すると死亡者は増加します。とくに日本では、オミクロン株になってからその傾向が強くなり、その原因究明と早急な対策が必要であり、そのためにも地域での現状把握は必要なのです。

### 文献

- 1) [https://www.who.int/news/item/05-05-2023-statement-on-the-fifteenth-meeting-of-the-international-health-regulations-\(2005\)-emergency-committee-regarding-the-coronavirus-disease-\(covid-19\)-pandemic](https://www.who.int/news/item/05-05-2023-statement-on-the-fifteenth-meeting-of-the-international-health-regulations-(2005)-emergency-committee-regarding-the-coronavirus-disease-(covid-19)-pandemic)
- 2) <https://www.mhlw.go.jp/stf/corona5rui.html>
- 3) <https://kidss.city.kawasaki.jp/ja/realsurveillance/report?chart=1>
- 4) <https://www.mhlw.go.jp/content/001111891.pdf>
- 5) <https://moderna-epi-report.jp/>

- 6) Nemudryi A, et al. Cell Reports Med. 2020  
DOI: 10.1016/j.xcrm.2020.100098
- 7) <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ga4/covid19/simulation.html#COVID>
- 8) [https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ga4/covid19/past\\_sewer/202306graph.html](https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ga4/covid19/past_sewer/202306graph.html)
- 9) [https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ga4/covid19/past\\_sewer/202306\\_4w.html](https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ga4/covid19/past_sewer/202306_4w.html)

All above URL information: cited 2023/06/26

川崎高津診療所コラム「新型コロナウイルス感染症は増えているのか？」v2.2

Published on line in June 26, 2023 (revised in June 28, 2023)

Attribution 4.0 International (CC BY 4.0)